



アメニティー
フォーラム 27

2024年2月9日 金 - 11日 日

2月
9日
金

「食べることは生きること」 ～日々、食事を提供する調理員さんが輝いた物語～

12:40～13:55

調理員さんたちの想いや活躍を知りその情報を共有していくことは、これからの施設給食の可能性や食を通じたよりよい支援を共に考えつくりあげる一歩になると考えます。

「調理員さんが輝くことが、これからの福祉の未来を変える！」

調理員さんがつくった思い出のメニューや、調理員さんの活躍によって実現した利用者さん・ご家族へのよりよい支援、地域の生産者やお店との連携などの物語を募集し発表します。このプロジェクトから得られたヒントを、全国の福祉施設に還元し、よりよい施設給食の実現に貢献していきたいと考えています。

物語募集の問い合わせ:「調理員さんを光に」プロジェクト運営事務局(株式会社朝日エル内)
担当)高木・廣瀬 TEL:03-3546-8020(10:00～17:00) Mail:info@ellesnet.co.jp



ゲスト:服部幸應

朝日エル:岡山慶子

2月
10日
土

榎藤説子プレゼンツ 誰もが楽しめるバリアフリー演劇鑑賞会 ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち～

20:30～22:30

バリアフリー演劇

このバリアフリー演劇の試みは、2018年より始まりました。聴覚障害者向けに背景のスクリーン上に字幕を表示し舞台では、舞台手話通訳者が俳優と同化した動きで舞台表現を補う形をとります。また、視覚障害者向けには音声ガイドをオープンで会場に流し、物語の進行を創造的に補う方法で情報保障を行ないます。バリアフリー演劇の試みは始まったばかりです。演劇でいう「バリアフリー」という言葉には、何より私たちの感性を解き放つという意味が込められています。皆さん、新しい風が運んでくる舞台をお楽しみください。(東京演劇集団風)

ストーリー

幼少期の病のため、聴力、視力を失い、ヘレン・ケラーと困り果てた家族のもとに、新米の家庭教師アニー・サリバンが訪れる。情熱的に教えようとするも、ヘレンに拒絶され続けるアニーは、周囲と離れ2人きりで生活することを決意する。与えられた時間は2週間。失敗を繰り返しながらお互いを求め、理解し、身体ごとの対話から世界を広げていく二人の出会いを描く。

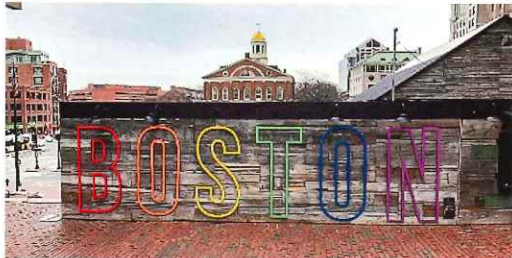


2月
11日
日

ボストンからの招待セッション 公開討論会 「日本とアメリカの違うところを、ポジティブに学び合います」

13:20～15:50

アメリカ・ボストンから、現地で障害のある子を育ててきた日本人のお母さんたちが駆けつけてくれることになりました。モデレーターの御代田さんが、昨冬にボストンを訪れた際に出会った皆さんです。想像以上に違う、日本とアメリカ。社会のカタチが変われば、福祉サービスの考え方もがらっと変わります。日本では通用した「ケアの当たり前」も、個人主義の色濃い国民性においては通用しません。障害のある子を育てていく中で、両国の違いをたっぷり体験してきた皆さんと、明るく語りあってみたいと思います。「日本の福祉」を再発見するチャンス、最後の最後まで、ぜひお付き合いください。



2月
9-11日
金 日

曾根直樹(日本社会事業大学教授)さんによる、 「地域生活支援拠点等における コーディネーターに求められる役割や業務等の明確化のための研究」 (令和5年度厚生労働科学研究)の調査が行われます!

地域生活支援拠点等には、緊急時の受け入れ・対応、地域生活への移行・継続の支援等が期待されています。この研究を通して、地域生活支援拠点等の効果的な運用のための拠点コーディネーターの役割や業務に関するガイドブックが作成される予定です。フォーラム会場で、この研究活動の一環として、当事者からのヒアリングが行われます。ご興味のある方は、この様子を視察されてはいかがでしょうか。当日、ヒアリング会場と時間をご案内いたします。